



データボード ⑰

- ① 静岡県富士市今泉8丁目
- ② 延長120m, 幅員4m

富士市は江戸時代には、東海道五十三次の十四番目の宿場町である吉原宿として栄えており、現在の今泉八丁目付近は吉原宿の北側にあたり、裾野・御殿場に通じる道となっていた。

この通りの北側には、今川義元が幼少のころから在住し成人した後、武田信玄、北条氏康の戦国大名と会盟し、三国同盟を結んだという善徳寺跡を含む善徳寺城があったといわれる。

この坂道沿いには、今でも土蔵がいくつか残っており、本国寺の石垣や格子戸の家屋などとあいまって、落ち着いた風情を醸しだしている。